

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2025年4月

販促・魅力発信

①魚種変化対応へのヒント オンラインセミナー

- 三陸・常磐地域の水産加工業者が直面する課題を解決し、持続可能な発展を支援するため、三陸・常磐地域における漁獲量や魚種の変化等にかかる調査や、魚種変化に対応した商品化や販路開拓、ブランド化等の取組状況についてヒアリング調査・分析を実施。
- 調査・分析結果の報告を行うため、令和7年3月にオンラインセミナーを開催。三陸・常磐地域の水産加工業者、支援機関を中心に87名が参加。

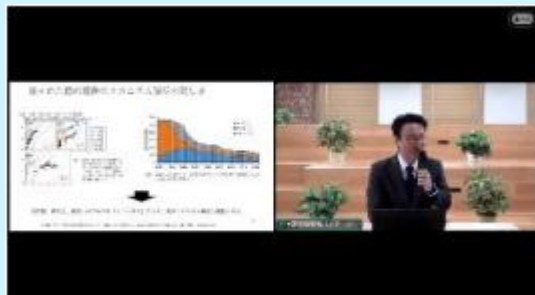
開催日：令和7年3月7日(金) 場所：オンライン配信

②海の変化をチャンスに変える 魚種変化対応へのヒント 事例集

- 調査・分析結果を基に、魚種変化に対応するために先進的な取組を行う水産加工業者の具体的な事例を紹介する『事例集』を作成し、令和7年4月に公表。三陸・常磐地域の水産加工業者の魚種変化等の課題解決の一助となるよう、今後も事例集を幅広く共有予定。

オンラインセミナーの様子

①事業調査報告の様子



②パネルディスカッションの様子



③知的財産権に係る講演の様子



■ セミナー開催報告（東北経済産業局HP）
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_hukko_suisan/topics/250218.html

事例集



■ 事例集（東北経済産業局HP）
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_hukko_suisan/topics/250414.html

- 北米最大水産専門見本市「Seafood Expo North America 2025」には、51カ国1,215社以上が出展。**米国をはじめ、カナダや欧州など各国から来場する多くのバイヤーとの商談が期待できるため、ジャパンパビリオンを出展。さらに日本産水産物の調理デモ等のプロモーションも実施。**
- 調理デモに使用した水産物の品質や現地風アレンジしたレシピへの満足度が高く、日本産を取り扱いたい現地企業が複数あり。

北米最大水産専門見本市「Seafood Expo North America 2025」でのジャパンパビリオン出展・調理デモ（米国ボストン）

■ SENAジャパンパビリオン概要

- ・開催日：2025年3月16～18日
- ・会場：Boston Convention Center
- ・出品者数：19社・団体（青森県、茨城県、千葉県含む）
- ・主な品目：ホタテ（青森県産）、タコ（茨城県産）、サバ（千葉県産）、ブリ、カニカマ、マグロ等

■ 主な評価

- ・遠くからでも一目で日本のブースであると認識でき、集客に繋がった。
- ・パビリオン内で開催されたビジネスマッチングで新規顧客と商談できた。
- ・北米・南米のみならず、欧州やアジアのバイヤーとも商談ができた。
- ・継続して出展していることで覚えてくれていた現地企業も多く、好反応を得た。



ジャパンパビリオンでの商談の様子

■ プロモーション概要

- ・開催日：2025年3月17日 13:00-14:00
- ・会場：Boston Convention Center Wave Makers' Zone
- ・内容：日本養殖魚類輸出推進協会と日本はたて輸出振興協会と連携し、現地の食事情等をよく理解する日本人シェフによる日本産のブリ、タイ、ホタテを使用した調理デモンストレーションを実施。

■ 参加者の評価

- ・日本産ホタテが甘く、新鮮さとおいしさに驚いた。
- ・各料理が丁寧に作られていて味わい深かった。次回もぜひ参加したい。



日本料理有名シェフによる調理デモ



ブリのユッケ（左）、ホタテの握り寿司（奥）
ブリとマイクログリーンのサラダ（右）

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、4月4日～6日の3日間、日本全国の名店が集まる日本最大級のスペイン料理の祭典「パエリア・タパス祭り 2025」に常磐ものパエリアブースとキッチンカーを出店した。**パエリアブースでは、直径 1.5 m の巨大パエリア鍋で「常磐ものアンコウ大鍋パエリア」を提供した。キッチンカーでは常磐ものを使用したスペイン料理フラメンカエッグなどを約850食提供した。**
- また、4月12日～13日の2日間、福島県伊達郡桑折町のスーパーやキャンプ場などを併設した複合施設「momomo KOORI」で、準備や片付けが要らない、**手ぶらで参加できるバーベキューイベントを開催し、常磐ものや福島牛、北海道産ホタテなど約50食を提供するとともに、ホタテ焼きの屋台販売、クイズラリー、県産グルメが当たる抽選会と様々な企画を実施した。**

パエリア・タパス祭り2025

- 日程：4月4日（金）～6日（日）10:00～20:00※
※最終日は18:00まで
- 場所：東京都千代田区 日比谷公園内 にれの木広場



「手ぶらでBBQ」 in momomo KOORI

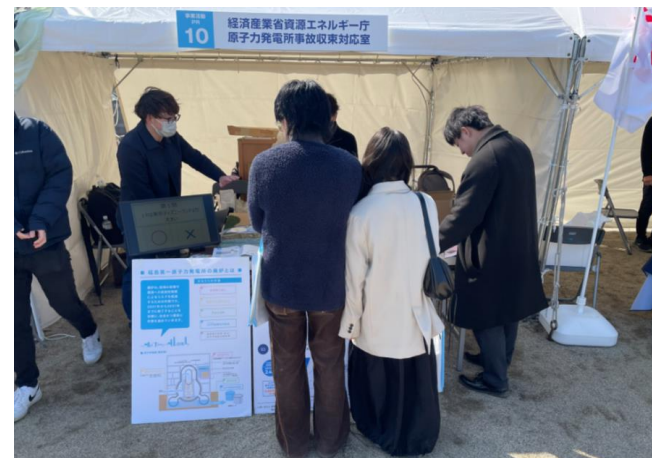
- 日程：4月12日（土）～13日（日）10:00～17:00
- 場所：伊達郡桑折町複合施設 momomo KOORI 内
GLAMQUET KOORI（グランケット桑折）



理解釀成

- 本年4月5日、6日に開催された「夜の森桜まつり2025」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Email

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えたときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

周辺の
海の状況は
どうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

海水や魚は
大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

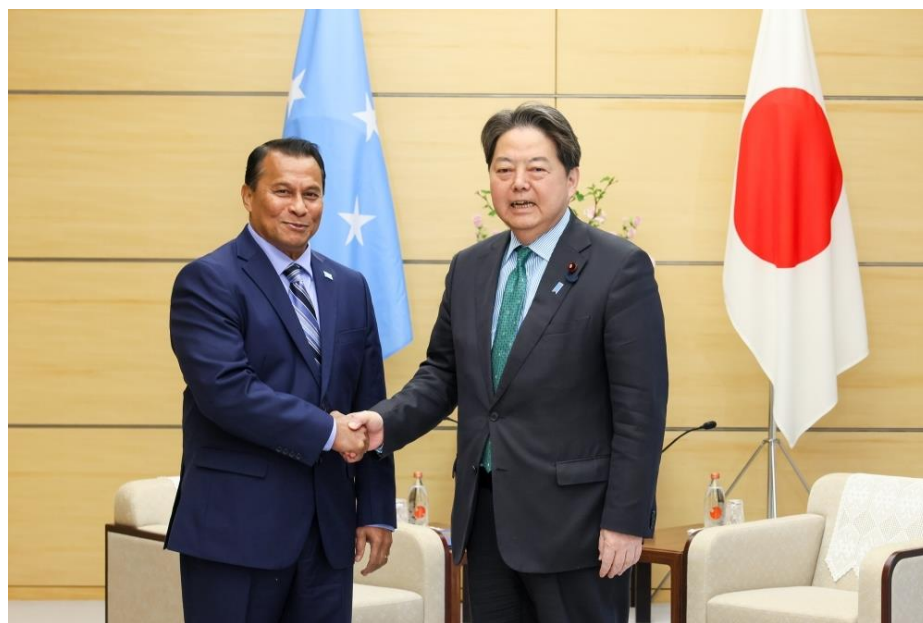
- 4月10日、**林芳正内閣官房長官は、アレン・B・パリク・ミクロネシア連邦副大統領と会談**を行いました。
- 林官房長官から、3月に訪日した**ウェズリー・W・シミナ・ミクロネシア連邦大統領**が福島県を訪問し、福島復興の様子や東京電力福島第一原子力発電所を視察し、**ALPS処理水の海洋放出に関して、安全性の理解、日本の取組への支持を表明したことに対して謝意**を述べました。

パリク副大統領からは、日本の科学的根拠に基づいた透明性のある取組を歓迎する旨発言がありました。

(参考)

【外務省】 林内閣官房長官とパリク・ミクロネシア連邦副大統領との会談

https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/fm/pageit_000001_01795.html



▲林内閣官房長官とパリク・ミクロネシア副大統領との会談（外務省ウェブサイトより）

- 農林水産省は、4月10日（木曜日）、中国海関総署との間で、オンラインにて日本産水産物の輸入再開に伴う技術的事項について協議を行いました。

（参考）

【農林水産省】 日本産水産物の輸入再開に向けた日中当局間の技術協議を行いました
https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kisei/250412.html

国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での 海水希釈後のALPS処理水の採取が初めて行われました

販促・
魅力発信

理解醸成

安全確保

11

- 4月15日（火）、**IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、試料の採取**が行われました。
- 今回の追加的モニタリングは、昨年9月に我が国とIAEAとの間で、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングを実施することで一致したことを受けて、**昨年10月及び本年2月に続き実施**されたものです。
- 東京電力福島第一原子力発電所構内において、**IAEA関係者及び韓国、スイス、中国、ロシアの分析機関の専門家が、海洋放出前の海水希釈後のALPS処理水を初めて採取**しました。

（参考）

【経済産業省】 国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、東京電力福島第一原子力発電所構内において、海水希釈後のALPS処理水の採取が初めて行われました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/04/20250415004/20250415004.html>

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施（結果）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02021.html

【東京電力ホールディングス】 IAEA関係者及び第三国分析機関関係者による海水希釈後のALPS処理水のサンプリング

<https://photo.tepco.co.jp/date/2025/202504-j/250415-01j.html>

【IAEA】 IAEA and International Experts Sample Treated Water within Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Prior to its Release

<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/iaea-and-international-experts-sample-treated-water-within-fukushima-daiichi-nuclear-power-station-prior-to-its-release>



▲海水希釈後のALPS処理水の採取（経済産業省ウェブサイトより）

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

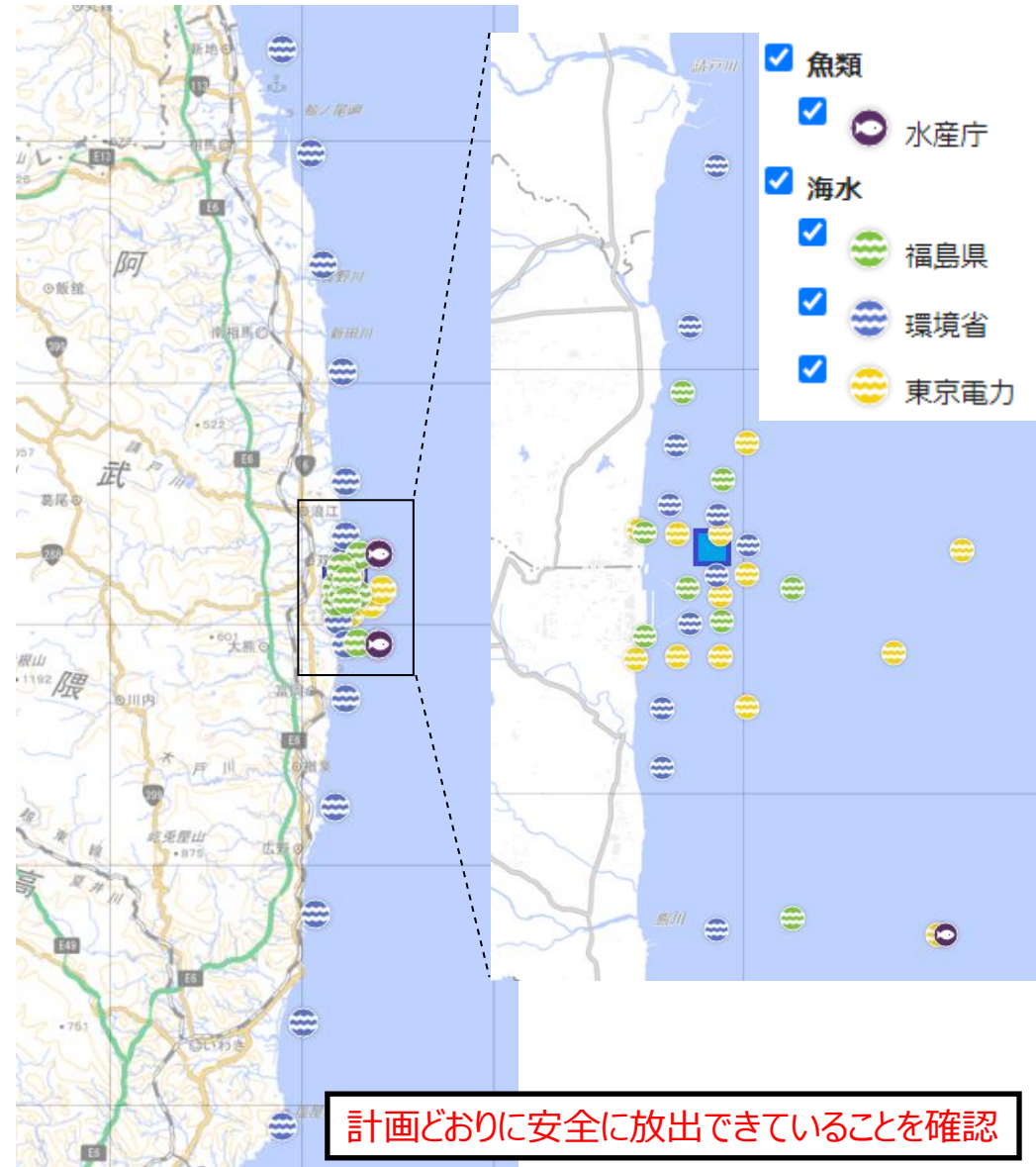
○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸20地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年4月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容(左上:モニタリング状況のお知らせ、右下:2025年度のALPS処理水の海洋放出計画について)

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2025年4月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/ℓ)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内(県内を離く)

20km圏内

※採取地点(海水) 定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

エリア	海水の測定結果【単位:ベクレル/ℓ】 (2025年3月1日～3月末までに得られた測定結果の最大値)
トリチウム [迅速測定※1]	3km圏内 56 20km圏内 検出せず(<8.6)
セシウム134※2	3km圏内 検出せず(<0.98) 20km圏内 検出せず(<0.0014)
セシウム137※2	3km圏内 検出せず(<0.93) 20km圏内 0.012

【参考】トリチウム濃度の比較

※1 トリチウムの検出下限値をリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
※2 福島県周辺海域における海水の放射性物質濃度は、セシウム134:0.00028ベクレル/ℓ(注1)日本の環境放射線と放射能 期間:2019/4～2022/3) セシウム137:0.00028ベクレル/ℓ(注1)日本の環境放射線と放射能 期間:2019/4～2022/3)

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度には、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/monitoring/>

包括的モニタリング調査システム(ORBS)

当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県)が測定した海水および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー (福島県双葉

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.45

2025年度のALPS処理水の海洋放出は、全7回を計画しており、安全・着実に進めてまいります。

▶ 2024年度の海洋放出は、計画どおり(全7回)、安全に実施しました。
▶ 2025年度は、放出回数:全7回、放出水量:約54,600m³、トリチウム放出量:約15兆ベクレルを計画しています。

年度	回数	処理水の放出量	トリチウム総量 [22兆ベクレル]	トリチウム以外の放射性物質の濃度	希釈後のトリチウム濃度※2 [放出の基本方針で示された 海況良好時のトリチウム濃度の上限 1,500ベクレル/リットル未満]	海水のトリチウムのモニタリング結果 [迅速測定※1]	
						発電所から3km以内	発電所正面から10km四方
2025 計画	7回	約54,600m ³	約15兆ベクレル	最新の状況は「処理水ポータルサイト」でご覧いただけます https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/			
2024 実績	7回	54,999m ³	約12.7兆ベクレル	各年度濃度比較※4 0.076～0.31 < 1	最大436 ベクレル/リットル	最大56 ベクレル/リットル	検出せず

※1 トリチウムの検出下限値をリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
※2 海水に希釈して放出した処理水のトリチウム濃度(1リットルあたり)を考慮した値
※3 国の放射線量の1/40、世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドラインの約1/7
※4 各年度の濃度の最大値と放出量に算入したものを示す

● ALPS処理水の海洋放出は、引き続き、安全性を確保しながら、計画的に進めてまいります。
また、その情報を正確かつわかりやすい形で国内外に発信してまいります。

ALPS処理水の海洋放出の状況についてはこちらをご覧ください
▶[放出実績]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/performance_of_discharge/

各機関が公開した海域モニタリングのデータはこちらをご覧ください
▶[包括的モニタリング調査システム(ORBS)]
<https://www.monitororbs.jp/ja/index.html>

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1501 福島県双葉郡大畑町大字大字字北郷22